

まるごと博物館を 歩く(一)

皆さんは博物館というところのどのような施設を思い浮かべますか。「昔の古い物が並べられ、それを鑑賞するだけの施設」「かたくて難しい施設」という意見が大半を占めるのではないのでしょうか。

確かに、資料を保存・展示し、実物資料をとおして、地域の特徴ある歴史や文化を学習していただくことは博物館の大きな役割です。

建設中の博物館は、館内の展示だけにとどまらず、恵まれた自然や市内各所に点在する史跡・寺社などを探訪し、本市の自然環境、特色ある歴史・文化を親しみやすく学ぶことができるよう市内全域を博物館のエリアとして考え、市内全域『まるごと博物館』の中核施設として位置づけています。

そこで今年度は、市内をウォーキングしながら自然や歴史を学ぶ、『まるごと博物館を歩く』を連載していきたいと思っています。

まず第一回目は、市役所から勝山城址までのコースです。秋元氏の居城であった谷村城址や金箔瓦の出土で話題となっている甲府城と同時期に、同じ浅野氏によって築城された勝山城址など、郡内地方の歴史の表舞台となったエリアを歩くコースです。

①スタート 市役所

市役所の庁舎前に秋元氏時代の城下町を描いた「谷村城下町絵図」

が掲載された説明板があります。

この中で、谷村城は、現在の谷村第一小学校を中心に広がり、家中川は谷村城の堀として、現在と同じ場所を流れていたことがわかります。なお、谷村城の御殿は、廃城の折り、恵林寺に書院として移築されたという記録があります。が、残念ながら焼失して現存していません。

城下町のころと、現在の谷村町を比較してみませんか。寺の配置



や町割りなど当時の姿が、よく留められていることを発見できると思います。

②富士見坂

城南橋に至る坂の途中に、富士見坂と刻まれた小さな石碑が立てられています。このあたりは、桂川の渓流と富士山とが一体となり、すばらしい眺望が望めたことから、いつのころか富士見坂と呼ばれるようになったといわれています。城南橋のかたわらには、桂

川の渓流と親しむことのできる公園が整備されています。

③勝山城址

登山道の入口には、数寄屋風のトイレが整備されていますが、その南側は一段下がった水田が広がっています。この一段下がった水田が、この勝山城の堀となっていました。勝山城址を取り巻いていた堀は、現在水田となっていますが、その跡はしっかりと認められます。

ここから、登山道を一五〇メートル程登ると、右手崖下がえぐられ左手は、幅十五メートルほどのぼんでいます。ここは城の西側の守りを固めるために築かれた空堀跡で、ここから西側山腹を半周して、本丸下の北尾根まで続いています。

空堀を過ぎると道下には、県の自然環境保全地区の指定を受けているアラカシ林が続きます。このあたりがアラカシ林の北限とされることが指定されています。

しばらく行くと、川棚見張り台と呼ばれる小さな平坦地に至り、ここを過ぎると急に道が険しくなり、やがて道幅が広がり、左手には一段高くなった平坦地が広がります。ここは三の丸で、前方には二の丸、本丸がそびえ、この三の丸から帯曲輪で二の丸、東側の曲輪に連絡されています。

二の丸から本丸への登山道正面には、きれいに面取りされた石垣が、土中から顔をのぞかせています。これは近世城郭に用いられた

打込みはぎ積みという方法で造られたもので、かつてはこのあたり全面に石垣が築かれていました。

山頂の平坦地は本丸跡で、ここからは谷村町が一望できるとともに、春は桜、秋には向かい側の白木山の紅葉が楽しめます。この本丸からは北側に下りると茶壺蔵の伝承地、東側に下りると鉄砲の火薬を保管した火薬蔵があったとされる平坦地があります。

④勝山八幡神社

勝山城址を下し、城南橋への坂道手前に八幡神社に至る山道があります。

応永二年(一三九五)

小山田越中

ネイチャーセンターガイド(2)

雪、ゆき、ユキは降りつづける。今年に入り、雪はわたしたちの目の前になんと姿をあらわしたのでしょうか？そんな降りつもった雪の下で春をまっていたオオイヌノフグリやスミレたちが一斉に花を咲かせます。観察ポイントを紹介したり、自然の中での過ごし方を紹介したパンフレットができあがりました。イベント盛りだくさん、春の陽気につつまれながらふれあいの里でのんびりと過ごしてみませんか。

1階展示フロア

企画展「宝鉾山今昔物語」

元鉾山勤務のおじさんの昔話を中心に紹介する宝鉾山の今と昔

2階展示フロア

観察コーナーではアカネズミが毎日、水槽の中にあられます。野生動物の世界をそとのぞいてみませんか？

センターで催すイベント以外にも団体、個人、ご家族に対するインタープリテーション(解説活動)を実施しています。(10日前までに申し込みください。)

フィールドでは

川のサテライトの池に3月はじめにヤマアカガエルが卵を生みにやってきました。みんなが来る時にはオタマジャクシになっているかな。

情報・問合せ先 都留いきものふれあいの里 ネイチャーセンター ☎(45)6222

守が外敵防護、領内鎮護の鎮守として、城山の山頂に八幡宮の社殿を造営したことが始まりと伝えられており、文禄三年(一五九四)浅野氏重が勝山城を築城する時、この社殿を現在地に移したといわれています。ここには、うろができていますが杉の太木がそびえ、その古さを感じさせる風格となっています。

さて、今月はこれでいったん終了です。約三時間ほどで歩ける範囲だと思っています。ぜひ、実際に歩いて見てください。では、来月は谷村の中を歩いて見たいと思います。

社会教育課 文化振興係